

# V

KOBE COLLEGE  
NEWSLETTER

# 25

2014・June

©Published by KOBE COLLEGE

神戸女学院大学

# Vistas

“Beauty Becomes a College”



現代文明社会を再考する――

## 先住民族の 叡知目に学ぶ

〈インタビュー〉月尾 嘉男 (東京大学名誉教授)

ライブコーチングによる親子同室プレイセラピー  
親子の交流を深め、子どもの問題行動改善を図る――5  
人間科学部 心理・行動科学科 國吉 知子 教授

音楽を通して見えてきた医師への道――9  
箕面市立病院 大槻 敦子 さん

●フィールドワークを軸に、行動的に学ぶ「プロジェクト科目」  
教室内だけでは完結しない「体験的な学び」――11

●人間科学部 心理・行動科学科、環境・バイオサイエンス学科開設 10年  
学部全体に徹底する基本を大切にしつつ  
両科の特徴を鮮明に、幅広い人材を輩出――13

●クラブ紹介・ひとりではできないことも、仲間がいれば挑戦できる  
仲間と夢中になる楽しさを！――15

●音楽によるアウトリーチ ～社会に開かれた学び～  
地域社会に役立つ演奏活動をプロデュースする――17

●受賞者紹介  
記念賞を受賞して――18

●西日本初、JSAFとのフルパートナーシップ  
本学初、ニュージーランドの大学と協定締結  
認定留学先を70大学に拡大

KCインフォメーション――19



支部





# 先住民族の叡智に学ぶ

—現代文明社会を再考する—

●東京大学名誉教授 月尾嘉男——TSUKIO Yoshio

Wakatobi インドネシア・ワカトビ諸島

人間の進化は右肩あがりだと言えるのか？—地球規模の環境問題が深刻な事態になっている現在、文明の進歩と理解されている人間の努力が、あらゆる側面で社会に良好な結果をもたらすわけではなく、社会に損失をもたらす側面もあるということが明確になってきている。東京大学名誉教授、元総務省総務審議官、ITの伝道師など、幅広い肩書を持つ月尾嘉男氏は、自身で世界各地の先住民族を訪ねた経験から、「彼らが維持してきた思想や文化が現代の環境問題の解決に役立つ」と説く。神戸女学院大学は、様々な分野、方向から考え、獲得した知識を社会、国、世界のために活用できる力の育成を目指すリベラルアーツ教育を実践している。本学ではその一環として、昨年11月、月尾氏をお招きして特別公開授業を行った。インターネットの利用による経済損失や、温水洗浄便座の普及による電力消費の増大など、身近な環境問題がわかりやすく語られ、人間は万物の霊長ではなく、生物や自然の崇拝、土地共有の精神が環境を維持する鍵であること。また、目指すべき未来を想定して現在を計画する“バックキャスト”の思考法が重要であることなどを学ぶ貴重な機会となった。さらに授業終了後、先住民族研究に至った過程をはじめ、彼らから学ぶべきこと、今後の日本社会の在り方について等、月尾氏に話を伺った。



月尾氏の著作▶  
 (左から)「地球千年紀行—先住民族の叡智」(清水弘文堂書房)  
 「100年先を読む—永続への転換戦略」(モロロジー研究所)

## ●文明に依存しない世界に触れて

都市計画やメディア政策という技術文明に長く携わってこられた月尾先生が、その対極とも言える先住民族の研究に関心をもちたのは何故ですか？

約50年間、工学の分野を勉強してきましたが、50歳になった頃に世界規模で環境問題が話題になり、「工学は環境問題に貢献しているのか」と疑問を抱くようになりました。また、その時期

からカメラを始め、四万十川、釧路川、知床半島などを訪れるうちに、このよ

うな自然環境が土木事業などの工学の成果、すなわち文明によって壊れていくのではないかと思うようにもなりました。そこで「それほど文明に依存しない社会の生活を知れば何かが発見できるのでは」と、先住民族の勉強を始めたのです。

先生の先住民族探訪は2008年から6年間、「地球千年紀行 先住民族

の叡智に学ぶ」という番組としてテレビジョンで放映されました。砂漠や密林、高地や離島など、過酷な環境をどのように巡られたのですか？

僕は文化人類学が専門ではないので、いきなりアマゾンの奥地へ行くのは厳しいと考え、最初は文明国に生活しながら伝統的文化を継承した生活を続けているニュージーランドのマオリ族を訪ねました。それ以後、20以上の先住民族を訪ね、28本の番組を製作しました。

予算が限られているので、毎回2週間ほどの撮影旅行でしたが、いつも過酷な撮影でした。例えばカナダの北極圏に生活するイヌイットのアザラシ漁に同行しましたが、小型のモーターボートで荒波の中を数時間も移動し、シロクマが出没するような場所までテントを張って野宿をしました。不安な体験でしたが、撮影した映像は素晴らしいものになりました。

正に生活を共にされたのですね。その原動力はどこからくるのでしょうか？

基本は好奇心ですが、より多くの人に、日本の社会とは対極にある社会が世界には存在するというを知ってほしいという気持ちも強くありました。もう一つは世界の様々な自然の中でカメラを動かしたことです！(笑)

## ●広い視点から環境問題を捉える

様々な環境問題に直面している現在、先住民族から学ぶべきことは？

一言でいうと「多様性を守る」ことです。多くの文明国では一様の制度、一様の思考が支配していますが、そのような社会は環境の大きな変化に直面すると耐えられない可能性があります。多様であれば、環境が激変した場合も、一部は衰退するかもしれませんが、一部は存続し新しく発展していくことができます。

世界は急速に情報社会に移行していますが、情報の本質的な特徴は多様です。例えば、今日僕が話した内容と同じことを別の人も発表していれば備

今日僕が話した内容と同じことを別の人も発表していれば価値は大きく減ります。『違う』ということが情報の最大の価値です。様々な人が違うことを考え、違う物を作り出せば、結果として多様な社会になる。多様という概念は、情報だけでなく自然や文化においても重要です。幸い日本には伝統文化を維持しつつ発展した世界でも稀な経済大国です。人々は七五三のときには神社へお参りに行くという伝統文化を維持しているだけではなく、教会で結婚式を行い、お葬式は寺院で行うというように多様な文化を取り入れてきました。この日本の多様な文化の素晴らしさに気付き、守っていくことが大切です。



値は大きく減ります。『違う』ということが情報の最大の価値です。様々な人が違うことを考え、違う物を作り出せば、結果として多様な社会になる。多様という概念は、情報だけでなく自然や文化においても重要です。幸い日本には伝統文化を維持しつつ発展した世界でも稀な経済大国です。人々は七五三のときには神社へお参りに行くという伝統文化を維持しているだけではなく、教会で結婚式を行い、お葬式は寺院で行うというように多様な文化を取り入れてきました。この日本の多様な文化の素晴らしさに気付き、守っていくことが大切です。

●精神文化の意義とは？

例えば、福島県相馬市にある86の神社が東日本大震災のときの津波でどうなったかを調べた研究者の調査結果によると、14は津波で流されましたが、72は無事であったことが解りました。72の神社はすべて津波の到達点のすぐ外側に鎮座していました。これは神憑りのな話ではなく、過去の経験から安全な場所に移したのかもしれません。地域社会はそのような知恵によって維持されてきたのです。流された神社は戦後になって入植した人々が自分の集落に出身地の神社を勧請したものです。伝統精神や伝統文化は古いものではなく、現代でも深い意味があるのです。

●使命感を持ち、多様な社会作りを

次代を担う若者には何を期待され

や鉄道マニアの鉄女など、男性優位であった分野に女性が進出していますが、これは大変よいことです。就職の幅も広がるし、結果的にも社会が穏やかになると思います。

●守るべき自然の循環

— 今後の展望をお聞かせ下さい。

カヌーやスキーで自然環境の恩恵を受けているので、それを維持することに関心がありますが、当面の目標は、岩手・宮城・福島の3県にある1700kmの海岸線に、8200億円もかけて370kmの防潮堤を作るといふ国の計

画を阻止することです。これまでも防潮堤は造られてきましたが、近代村以外では、今回の津波に対して効果はありませんでした。それを再度建設するというのは、人間の傲慢と技術への過信でしょうか。人間は安全な高台に移り、海岸付近は公園などにするのが有効です。防潮堤は自然の循環を止めてしまいます。

— 本日の授業では、エジプトのアスワン・ハイダムを例にお話し下さいました。これは、ナイル川上流に治水と利水を目的にダムを建設した結果、上流からの肥沃な汚泥が遮断され、河口

の農村地帯では大量の肥料が必要となり、土砂の減少により村落は海中に水没。魚類が減少して漁業も壊滅したということでしたが。

同じことが発生します。川が海に流れ、魚や鳥が往来して自然が維持されているのですが、すべて防潮堤で遮断されてしまいます。例えば、牡蠣の養殖で有名な宮城県の気仙沼では、「森は海の恋人」という美しい言葉で背後の山に植林した結果、豊かな海になりました。森と海は密接に関係し、豊かな海産物を育んでいます。その関係を遮断する防潮堤を造るのは自然の仕組み

理解しない暴挙です。何とか防ぎたいと努力しています。

●文学部英文学科  
白井由美子先生のコメント

今回の特別公開授業では、教職を履修する学生が中心にお話を伺いました。月尾先生は、日本についてよく知ることや、英語圏以外の文化にも目を向けることの大切さをお教え下さいました。そして、人間として一番大切なこと「驕るな」ということも。ユーモアも交えた意義深いお話。学生の今後、役にたつことでしょう。



特別公開授業の様子

ますか？

自国の素晴らしい文化を背景に勉強することです。明治初期は現在のよう若者の4割が大学で勉強できる時代ではなく、ほんのわずかな人しか機会はありませんでした。そこで当時の大学生は日本のために必死で勉強しました。残念ながら現在の若者の多くには「何のために勉強するのか」という使命感がありません。社会と接触を持ち、様々な人々と触れ合うことで、日本の社会にとって何が必要なのかを知り、使命感を持って勉強することに期待したいと考えています。

映画「ラストサムライ」の冒頭は「日本は一握りの勇者によって創造されたといわれる。彼らが命を懸けて守ったものは、現在では忘れ去られたつある言葉『名譽』」という素晴らしい言葉とともに始まります。かつての日本人には「名譽を守る」という気持ちがあ

りましたが、最近では薄らいでいるように思います。日本は素晴らしい国だということに自信を持って欲しいと思います。

— その名譽とは、誇りと解釈できそうですね。では、日本のために女子大生に出来ることはありますか？

日本は世界有数の男女格差のある国です。「男女格差がない」という尺度で測ると、日本は136カ国中105番目。国会議員の女性比率はわずか8%で146カ国中122番目です。これは別の表現をすると男性中心社会。つまり、多様性が欠けていることを意味します。男女が対等の社会を築く必要があります。女子大生は将来の日本を担うという気概を持ち、大学にいる間にも社会に関心を持ってほしいと思います。

— 先住民族は母系社会が多いそうですが、何か理由があるのでしょうか？

僕の訪ねた範囲では、父系社会はヤップ島だけで、それ以外は女性が力を持っています。例えばアメリカインディアン部族には、クランマザー(クラン部族)と呼ばれる女性に最高決定権があり、子供の名前や次の族長を決定しています。社会を維持するには母系社会がいいのです。男性中心だと権力を誇示しようと、策を弄するため社会がゆがむ。女性が精神的に支配していると社会が安定します。

最近の日本には狩りガールとか山ガール、土木工事に従事する土木女子

●月尾嘉男(つきお・よしお)

1942年愛知県生まれ。1965年東京大学工学部卒業。工学博士。都市システム研究所長、名古屋大学工学部教授、東京大学工学部教授、総務省総務審議官を経て、2003年より東京大学名誉教授。これまでにコンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策などを研究。全国でカヌーやクロスカントリースキーをしながら、知床半島塾、釧路温泉塾、宮川清流塾などを主宰し、地域の人々と地域振興と環境保護に取り組む。また、2004年冬、南米大陸南端のケープホーンをカヤックでの周回に成功。著書に『先住民族の叢智』(遊行社)、『地球千年紀行』(清水弘文堂書房)、『100年先を読む 永続への転換戦略』(モラロジー研究所)などがある。



高知県の四万十川をカヌーで川下りする月尾先生



＜月尾先生が訪れた先住民族の言葉＞

人間の進化を右肩上がりと考えた人たちがいますが先住民族は違います。世界の進化は往復のある運動なのです。伝統社会の世界観は祖先を基準にしているの現代の人々は過去と幸せを共有しているのです。

- アユトン・グレナック(アマゾン先住民族)

大地は世界の野心的な人々が望む鉱物や石油など経済的資源以上の存在です。父なる太陽 母なる大地 祖母なる月は生活と精神のすべてにかかわる存在です。私たちは何世代にもわたって大地を歩いてきました。そして子や孫が歩き続けられるために母なる大地の世話をすべきなのです。

- リゴベルタ・メンチュウ(グアテマラ先住民族)

Rio Amazonas  
アマゾン川源流付近の支流

Shiretoko  
北海道・知床半島

Jenny Lake  
アメリカ・ジェニー湖

Sanriku  
三陸海岸



と少し距離をとって、賞賛します。幼  
児は親がきちんと承認し、見守り、褒  
める喜びを感じて非常に安心します。  
親もまたそうすることで、親のポジショ  
ンと良い意味での親の権威を確保す  
るのです。

——親子の立ち位置を同等にしない。  
現代は「友達親子」というように、  
親子の境界線を曖昧にする風潮がある  
ようですが、家族には秩序が必要で、  
親が子どもと同じレベルになってしま  
うと子どもは困ります。親が親のスタ  
ンス、ポジジョンを取り、親の役割を

**親が親のスタンスを取ることが、  
子どものころの安定と自立をひきだします。  
ネガティブにみえることをリフレミングし、  
新たな価値や意味を見出し、  
そのセンスを自分の中にどう磨くかが大切です。**



がPRIDEスキルをマスターするに  
つれ、子どもは自然に子どもらしくな  
り、遊びに集中し、落ち着く。親は親  
らしくなり、自然に子どもを可愛いと  
思うようになる。やってみて初めて、  
こんなに効果があるんだと自分でも驚  
きました。

——今後の展開について教えてください。  
セラピーだけでなく、定期的にPC  
IT講座やPCITを基軸とする心理  
教育プログラムを開講し、子育て支援  
を充実していきます。また、PCIT  
インターナショナル(PCIT本部や  
国際学会等を通じて、各国PCIT指  
導者や実践者との交流をより一層深め  
ていきたいと考えています。さらに近  
隣の幼稚園とも連携し、教育現場で使  
えるPCITを応用したプログラムの  
開発も計画中です。女学院が拠点とな  
り、PCITは今後、着実に関西にも  
普及していくと思います。

**大切なのは、素直に感動する心**  
——先生は何故、臨床心理学の分野に  
進まれたのですか。



心理相談室・大面接室の箱庭

引き受けることで子どもは安心して、子  
どもを満喫できる。逆説的ですが、  
それが幼児の適切な行動や自立を促す  
のです。今の時代だからこそ、意味が  
あります。共感的、受容的な関わりが  
ベースであれば、適度な世代間境界が  
保たれている方が子どもの心が安定す  
るということは、家族療法の知見にも  
示されています。

——遊びの最中、子どもが興奮して攻  
撃的になる等の問題行動を起こした場  
合は、どのように対応するのですか？  
まず不適切な行動には、適度な無視

もともと内省や人のところや気持ち  
について考えるのが好きだったんです。  
子どもの頃、教会学校で女性カウンセ  
ラーに出会ったことも縁に思えます  
し、電話相談に携わった時に、向いてい  
るなと感じたこともきっかけです。

——どういったところが向いているの？  
相手の話に何らかの、関心ポイント  
を見つけられるところです。自分の価  
値観を脇に置いて話を聞くことができ  
る。例えば、クライアントの話に全然  
知らない話題が出てきても、「ふーん、  
それどんなの？」と自然に関心が向く。  
実際、不登校の高校生の男子が「先生、  
観てな！」と持って来たエヴァンゲリ  
オンの録画(アニメ)を、正月休み返上  
で全部観たこともあります。当時小学  
生だった娘に「お母さん、何してる  
の？」と聞かれ、「仕事」って笑。ど  
んなクライアントにお会いしても何か  
しら「いいなあ」と思える点を見つけ  
られる。そういう間口の広さみたいな  
ものですね。

——そのお話を、セラピストを目指す  
学生達に役立ちそうです。

セラピストに大切なことの1つは、  
何でもあたり前と思わず、「わあ、すご  
い！」と素直に感動できる気持ち。共  
感感動です。「こういうところがこ  
の人のよい部分だな」と思える能力が、  
クライアントに寄り添う姿勢に繋が  
ります。一見ネガティブにみえること  
をリフレミングし、新たな視点や潜在  
的な価値、意味を見出し、その

をし、その行動が繰り返されないよう  
にしますが、興奮し制御がきかなくな  
った子どもには、安全な部屋で一人にす  
る、椅子に座らせるという方法で、数分  
間のタイムアウトをとります。罰を  
与えたり叱責するのではなく、状況か  
ら距離をとらせて落ち着かせるんです。  
4歳の子でも、本気で向き合うには  
もの凄いエネルギーが必要。実際、タ  
イムアウトの部屋に連れて行く時に大  
騒動になる子どもさんもいて、ちょっ  
と厳しく感じるかもしれませんが、そ  
の後、親子関係は落ち着くんですよ。

——心理相談室ではどのような体制で  
PCITのセラピーにあたるのです  
か？  
現在は、1ケースにつき、私と須藤  
春佳先生に加え、院生(修了生)アシス  
タントのチーム体制で手厚く進めてい  
きます。



学外での講演風景

——今後の展望をお聞かせください。  
PCITに関してはまだ始まったば  
かり。本学で実践者を育成できるよう、  
私も研鑽を積んでいきます。学生がP  
CITを本格的に学べるシステムを本  
学に作ることできたらと思っています。

また、私は力動的心理療法や家族療  
法に加え、現在、PCIT、そして、  
音楽を聴きつつ心身の誤った緊張を  
調整し、マインドフルネス(瞑想)状態

——昨年12月から実際のセラピーをス  
タートされ、いかがですか？  
「素晴らしい」の一言です！クライ  
アントの親子関係が劇的に変化してい  
ます。PCITは行動療法なので、セ  
ラピストは親に「こういう風に褒めま  
しょう」とか「子どもさんの言った事  
を繰り返しましょう」とか、行動レベ  
ルでの介入しかしません。普段、私は  
PCITとは別の流派の心理療法を  
行っているのが当初「行動へのコーチ  
だけで本当に変わるのかな？」と思っ  
ていた部分もありました。しかし、親



心理相談室が実施している  
PCITのパフレット▼

を作り出す「調整的音楽療法(RM  
T)」、眼球運動(両側性刺激)によるト  
ラウマ治療「EMDR」など、最新の  
臨床実践と研究を行っています。心理  
学は流派ごとに独自性を強調するあま  
り、排他的傾向を持つくらいがありま  
す。理論背景や方法論が違っても、理  
論が、異なる流派を知り視野を広げてい  
くと、実は共通点も多いことに気づき  
ます。私はこれらの臨床経験を活かし、  
心理療法についての統合的なビジョン  
を提供できればと思っています。各技  
法は長期的にみれば同じ方向を目指し  
ています。ローブウェイ、徒歩などい  
ろいろな登り方がありますが、頂上を  
目指すのは一緒。各技法の特色を理解  
し、トータルに見て各人に合った療法  
を提供していきたい。今は、そのため  
のマッピングをしているところです。



園吉教授の著書や論文▶

■園吉知子  
(くによし・ともこ)  
京都大学大学院教育学  
研究科博士後期課程修  
了。臨床心理士。姫路独  
協大学非常勤講師、同志社女子大学、佛光大学学生相談室カウンセラー、京  
都大学留學生相談員、京都ノートルダム女子大学教授を経て現職。心理相談以  
外にも、企業や社会教育で講演やグループ実践に多く携わる。2000年~2006  
年京都府臨床心理士会理事(子育て支援担当)。日本EMDR学会編集委員。



# 音楽を通して見えてきた 医師への道

—学ぶことの楽しさを知る—

● 箕面市立病院  
大槻 敦子 さん — OTSUKI Atsuko

箕面市立病院で初期研修医2年目を迎えた大槻敦子さん。意外にも、神戸女学院大学での専攻は音楽学部ピアノ科だった。なぜ音楽を専攻し、医療の世界へ足を踏み入れたのか？ その軌跡を追ってみると、たとえ時間がかかっても、進路についてとことん考え、納得して邁進したいという大槻さんの人となりが見えてきた。

Music × Medical care

## ● ピアノの楽しさに目覚める

「中学時代はソフトテニス部に入って部活ばかりしていました。中高一貫の進学校だったが、勉強は大嫌い。高校受験のための引退期間に部活の友達と一緒にピアノを弾いたことが、大槻さんのその後を変えた。「小さい頃からピアノ

ノ教室に通っていたんですが、レッスン前にちよろっと練習する程度。それが、友達が好きだというクラシック曲を聴いたら自分でも弾いてみたくなって、練習しているうちにどんどん面白くなっていったんです」。高校は英数コースに進んだものの、1年生の夏に「大学でやりたいことはピアノしかない。テニ

スも辞める」と両親に宣言。反対を押し切り、標準コースへと進路を変えた。

## ● 就職という大きな壁

願い通り、大槻さんは神戸女学院大学の音楽学部に入學。ピアノはもちろん、副専攻で選んだ声楽や他教科にまで興味を広げた。「選択肢も多くて、初めて勉強って面白いものなんだ！と思いました。自分で選んだ大学に進めたこともあり、勉強嫌いは払拭され、学ぶことが好きになったという。

しかし、就職活動の時期に入ると悩みが生じた。「音楽を仕事にするにはどんな分野があるのか、調べたり勉強したりしました。でも、何をやりたいのかわからなくて…本当に苦しかった」。そんな時、父親からかけられた言葉が心にひっかかった。「音楽をやりたいなら、医学部へ行ったら？」と言われたんです。音楽療法については知っていたけれど、思いもよらない選択肢でした。ちょうど同時期、大学で聖路加国際病院の日野原重明先生の講演を聞く機会もあった。「医師という職業も音楽に関わることができるのかと思うようになりましたが、まだ動けませんでした」。結局、大槻さんは就活をせずに卒業式を迎えた。

## ● 悩んで悩んで見つけた出口

卒業後、大槻さんは悩みつつ、ピアノを弾きながら塾講師と家庭教師のアルバイトを続けた。そして1年後、家

庭教師にひと区切りついたので機に、医学部へ進むことを決意。「それからは予備校で猛勉強です。未知の世界が広がり、勉強が楽しくて仕方ありませんでした。目標が定まると、それに向かって一直線。2年で京都府立医科大学に合格した。

医大で6年間みっちり学び、晴れて研修医になったが、「今でも、まだまだ知識や臨床経験が足りないと感じます。責任も大きいですし、一生勉強です」と大槻さんの勉強意欲は衰えない。

## ● 自身を支える音楽の存在

医大時代、大槻さんは合唱部で団長を務め、数々の舞台に立った。現在も、職場のクリスマスコンサート等で同僚達と演奏する機会を得ており、自然な流れで音楽に関わり続けている。

大槻さんにとって音楽とは？と尋ねると、「音楽だけに打ち込んだあの時期

音楽だけに打ち込んだあの時期があったからこそ、将来やりたいことが見え、今の自分があると思う。音楽は自分自身を成長させてくれたものであり、これからも自分の一部だと思っています

があったからこそ、将来やりたいことが見え、今の自分があると思う。音楽は自分自身を成長させてくれたものであり、これからの自分の一部だと思えます」と返ってきた。音楽を学んだことは、決して無駄ではなかったのだ。

## ● 敵しくても好きなことを

実は大槻さん、昨年9月に出産したばかり。研修の都合上、2カ月で職場復帰し、仕事と子育てを両立させて多忙な日々を送っている。初期研修で全ての診療科を経験し、10月から始まる後期研修では自ら選んだ産婦人科に配属される。「ちょうど妊娠中、産婦人科に配属されていて、お腹が大きくなってしまったのに、夜9時や10時になっても楽しいなと思えたんです。やっぱり働いていて楽しいのが一番。ハイリスクな科だし、深夜に呼ばれることもある。子育てしながらやっていく自信はなくて迷ったけれど、同じように育児をしながらやってらっしゃる女医さんも沢山います。先輩方の『好きなことをやってほしい』という言葉に影響され、私もやってみよう！と決めました」。

後期研修前の半年間は休職し、子育てを優先する。しかし「プランクがある」と忘れてしまうことも多いはずなので、休職中も外来を見学させて貰うんです」と、熱心さは健在。その原動力も、音楽へ邁進した経験により培われたのかもしれない。



■大槻敦子(おおつき・あつこ)  
2003年 神戸女学院大学 音楽学部 ピアノ専攻卒業。卒業後1年間、塾や家庭教師のアルバイトに励んだ後、医学部を受験するため予備校へ。2006年 京都府立医科大学 医学部入學。2012年同大学卒業と同時に、箕面市立病院(大阪府)へ研修医として就職。

(※取材は3月に行いました)

# Fieldwork

## 3 プロジェクト科目 <フィールドで学ぶ現代インドの諸問題>

海外にフィールドワークに行くという入学当初からの夢を、今回叶えることができました。現地では、はじめての景色に圧倒され、訪問した先々で出会った人たちの温かさに助けられました。現地で感じたことが、この先の私の未来にどう生かされるのか、今から楽しみです。 ■2年 鴨志田



インドでは多くの人にお世話になりました。どこへ行っても、心優しく、私たちを受け入れてくださり、最高のおもてなしをしてくださいました。生で人を感じる、そんな体験でした。インドの良さを伝えることで、少しでも恩返しができたら、と思います。今回の体験学習にかかわって下さった多くの人に感謝します。 ■3年 松本

障害のある子供たちが生活しているマザーテレサの施設で子供たちの食事の補助をさせて頂きました。子供の温かさ、重みを身をもって感じ、命について深く考えさせられました。また、自分の将来の方向性を見定めることができたのも大きな財産となりました。 ■3年 森

2013年9月上旬に総合文化学科の学生14名が、インドのバンガロール近郊でストリートチルドレン、障害のある子ども、貧困の女性を支援する施設を訪問して学びを深めました。学生の感想を紹介します。

## 4 プロジェクト科目 <戦争と平和を考える>

授業では3人の教員によるリレー講義に、京都の立命館大学にある国際平和ミュージアム、大阪の真田山陸軍墓地やピースおおさかへのフィールドワークを行いました。また、最終的なまとめとして、1泊2日の東京学習旅行を行い、「慰安婦」問題を取り上げる「女たちの戦争と平和資料館」、近代以後のすべての戦争を正義の戦争だとする靖国神社・遊就館、戦争で傷ついた日本兵の戦後を記録する「しよけい館」を見学しました。生々しい展示の内容や証言に、学生たちは強い衝撃を受け、それぞれの歴史認識を問い返しているようでした。これは、私たち教員にとっても新鮮な学びの機会となっています。



東アジアの友好と未来を考える上で、満州事変から日中戦争、アジア太平洋戦争へとつづく一連の戦争への正確な理解は欠かせません。日中・日韓の現代的な問題にも、歴史的背景を踏まえた対応が必要です。この科目には、今後の

## 5 プロジェクト科目 <中国で体験する異文化>



◀ 広東外語外貿大学



日中国交が正常化されて40年が過ぎ、現在、日本と中国は様々な面で交流が進んでいます。日本語教育の現場でも日本と中国の結びつきは強く、日本国内で勉強している学習者のうち、約7割が中国語圏出身です。そのような状況を踏まえ、この科目では、日本語教育に生かすための異文化体験として以下のことを行います。まず、講義をとおして、日本人として知っておきたい日本文化・日本事情を学びます。次に、本学と提携している広東外語外貿大学に赴いて現地に1週間滞在し、中国国内での日本事情、日本語教育事情について学びます。また、現地で日本語を勉強している中国人学生に対して、日本文化・日本事情の紹介も行います。この科目を受講し、普段できない体験をすることで、視野の広い人になってみませんか。

## ◎ フィールドワークを軸に、行動的に学ぶ「プロジェクト科目」 教室内だけでは完結しない「体験的な学び」

文学部総合文化学科の「プロジェクト科目」は教室で学ぶだけではなく、その場に出かけて、現地の空気を肌で感じ、色々な人から話を聞くことで学びを深める科目。毎年多彩なテーマを取り上げ、専門の異なる複数の教員が担当する。学生は一つのテーマを複数の視点からとらえることができ、少人数の授業で活発にディスカッションを行うことで、学びを深めている。

## 1 プロジェクト科目 <沖縄学入門：沖縄を学ぶ、沖縄で学ぶ>



かつて琉球王国という独立国であった沖縄は日本とは異なる独自の文化を発展させました。沖縄は20世紀半ばに「この世の地獄をすべて集めた」と言われるほど悲惨な地上戦を経験し、その後はアメリカ軍による支配下におかれました。「日本復帰」後も今日まで続く米軍基地の問題に苦しめられています。このプロジェクトでは、そうした沖縄の歴史(特に琉球の伝統文化)を概観し、沖縄戦(集団自決など)について学び、米軍基地の現状とそれがどのような問題をはらむのかを考察します。沖縄への研修旅行では世界遺産首里城をはじめとした文化遺産の見学、沖縄戦の戦跡訪問と、戦争経験者との対話、基地見学と現地で運動に取り組んでいる人との意見交換などを行いました。観光旅行では触れることのない沖縄に学生は強く心を揺さぶられた様子でした。沖縄を考察すること。それは日本とその将来について考えることでもあります。

## 2 プロジェクト科目 <インド人学生に日本文化の魅力を伝える>

「いただきます」や「ごちそうさまでした」など、覚えただけの日本語を使って会話をしてくださいました。それがすごくうれしくて、日本語を教えることは難しいけど、この経験ができて本当によかったです。 ■3年 演岸

京都観光案内では、先生方に一切頼らず、自分たちだけで訪問先を決めて、分刻みのスケジュール作成や、お店のアポイント取り、当日トラブルが起きた時の臨機応変な対応など、企画力が養われたと思います。 ■3年 新崎



周りの他の観光客が「お参り」をしているのを見て、「なぜ？手を合わせて頭を下げているの？」という質問にうまく答えることができず、困惑しました。 ■3年 多村

私たちが和紙を見て綺麗だと話していると、彼女たちも「so beautiful！」と感動していたとき、綺麗と感じる感性は同じだと思いました。 ■3年 演岡



2013年10月下旬にインドの Joseph's College から来校した3名の学生に対して、本学学生10名が、日本語レッスン、大阪の企業訪問(文具メーカー社員によるビジネス・マナー講義)や西宮の和紙作り体験(名塩和紙博物館)での逐次通訳、お茶席(キャンパス内の茶室「松風庵」)での作法の解説、京都観光案内など、約8日間にわたって学内外で文化紹介実習を行いました。学生の感想を紹介します(活動報告会から一部抜粋)。



■ School of Human Sciences ■



◎ 人間科学部 心理・行動科学科、環境・バイオサイエンス学科開設10年

学部全体に通底する基本を大切にしつつ  
両科の特徴を鮮明に、幅広い人材を輩出

人間科学部がそれまでの単一学科から、心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科の2学科で構成されるようになって、今年で10年目を迎えた。今回は学部長、両学科長と両学科の卒業生にご出席いただき、この10年を振り返るとともに、今後の人間科学部のあり方についてもお話をいただいた。



- 人間科学部 学部長  
遠藤 知二 教授
  - 心理・行動科学科 学科長  
小林 哲郎 教授
  - 環境・バイオサイエンス学科 学科長  
張野 宏也 教授
- .....
- 橋田 佳奈 さん  
(2010年 心理・行動科学科卒  
2012年 人間科学研究科博士前期課程修了)
  - 柳川 朋美 さん  
(2013年 環境・バイオサイエンス学科卒)

人間科学部が心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科に分かれた経緯を教えてください。

遠藤 1993年に家政学部から人間

科学部に改組されたときには、人間科学科という1つの学科で、その中に人間行動科学専攻と人間環境科学専攻の2つの専攻が置かれていました。その後あちこちの大学に人間科学部が設置されるにつれ、心理などを扱う学部という印象が一般的になり、本学の人間科学部の特色である理系分野の存在がはつきりなくなっていました。そこで、2005年に人間の心や行動を扱う心理・行動科学科と人間の体や環境を扱う環境・バイオサイエンス学科に分け、それぞれの分野の特色をより鮮明にすることにしました。ただし、両科を有機的に結びつけて「人間の科学」を行うという、本学部のもともとのポリシーは変わらずに受け継がれています。

—— 学科が分かれてから10年、両科はどのような特徴を備えてこられたのでしょうか？

小林 心理・行動科学科は臨床心理学、社会心理学、認知心理学、対人関係心理学、精神医学や関連する精神保健福祉学等の多様な領域の教員を擁し、幅広い心理学の分野が学べるようになっています。また、設置当初から1年生の心理学入門ゼミに始まり徹底した少人数教育を行ってきました。心理行動科学実験実習や臨床心理学実習など体験を通じて人間の心を理解する知識や方法を身につけてもらうのも特徴です。

張野 環境・バイオサイエンス学科は体験的な実験・実習の重視、就職先が

幅広いことなど、基本的な部分では心理・行動科学科と共通しています。この10年の大きな変化としては中学・高校の理科教員免許を取得できるようになったこと、それに伴い、「環境・生態領域」と「バイオサイエンス領域」に加えて「科学教育領域」が開設されたことがあげられます。また、文系出身者に対しては専門教育に先立って自然科学の基礎を学ぶカリキュラムが充実していることも学科開設以来の特徴です。

—— 卒業生のお二人にお聞きします。それぞれの学科で学んだ4年間を振り返って、どんな印象をお持ちですか？

橋田 私は大学では、高校までには学ぶ機会がなかった心理学をやるうと心理・行動科学科を受験しました。臨床心理学実習などの科目を通じて、実際のカウンセリングの現場の具体的なイメージを得ることができました。現在、私は神戸市の区役所で知的障がいの方からのご相談に対応する窓口の仕事をしています。ご相談者にふさわしいサービスを考えるためには、家庭環境などまで確認しなければなりません。臨床心理の専門知識を直接活かす現場ではありませんが、相手に寄り添うようお



張野 宏也 教授



柳川 朋美 さん 橋田 佳奈 さん

話を伺う際には、大学・大学院で学んだカウンセリングの知識や経験がごく役に立っています。

柳川 私は好きな生き物のことが学べると思って環境・バイオサイエンス科を受験しました。標本を作ったり、キノコを観察したりと実験やフィールドワークが楽しかったです。神戸女学院大学には主専攻とは別に学部学科を越えて学ぶことができる副専攻プログラムが用意されていたことも良かったです。私はその中から、地域創りリーダー養成プログラムを受講しました。

現在、大阪府で事業所の排水を調査し、河川を汚さないための指導を行う仕事にあたっています。主体的に課題を見つけ、解明する努力をする勉強の習慣を大学の間に身につけることができたおかげで、今の職場でも仕事を与えられたときに、先輩や上司にすぐに

指示を仰ぐのではなく、一度、自分で調べ、自分なりの答えを出してから相談するような仕事の進め方ができています。

遠藤 地域創りリーダー養成プログラムは、「活力ある地域社会を作る女性リーダーの育成」をテーマに、最初は人間科学部だけのものでしたが、今は全学の副専攻としてどの学部の学生でもとれるようになりました。地域社会の中で活動することによって、大学の中だけでは学べないことを学ぼうという人間科学部らしさが出たプログラムです。

—— 今後の学部・学科の教育について抱負をお聞かせください。

小林 心理学はミッシェンステートメントに掲げる、置かれた場で、自らの役割を果たし、共感性の高い人格を目指すために有効な学問です。実験や調査の計画、統計処理や分析など科学的側面も含んでいます。人を理解し共感するコミュニケーション力と論理的・科学的な思考力をバランス良く備えた人材を育てるべく、今後も教育内容に磨きをかけていきたいと思っています。

張野 自分の研究意義をしっかりと認



小林 哲郎 教授



識して、解明に導く考え方を有した学生を育成する学科にしたいと思っています。また、全学的に取り組んでいる語学力の向上については、流暢にしゃべることができるといっても、理系としての自分の研究や仕事の内容を英語で明確に伝えられる力を修得させたいと考えています。

遠藤 10年の間に地域創りリーダー養成プログラムを始めるなどいろいろやってきましたが、今日の話から「基本は変わっていない、世の中が変わっても、良い部分はずっと残すというのが本学部のやり方だ」と再確認しました。本学部は幅広い学びを体験できる場だということも多くの方に知っていただきたい。学生達が社会に出て、職場だけでなく、生活する地域社会の中でも学んだ知識や技術を活かして活躍できる人間に育ってほしいというのが私達の願いです。

# 仲間と夢中になる楽しさを!

## 津軽三味線部

2005年に創部。部員は7人で、週2日程度集まって練習しています。演奏曲は、基本となる曲「六段」から練習します。弾けるようになったら、津軽三味線の伝統曲はもちろんのこと、J-POP等の新ジャンルにも挑戦します。

活動の場は、大学祭をはじめ、留学生歓迎会やクリスマス祝会にも参加する等、さまざまです。福祉施設や地域のイベント等、学外でのボランティア活動も行っています。また、昨年は先生と一緒に全国大会の一部団体戦にも参加しました。

部のモットーは「仲よく楽しく」。歴史はまだ浅い部ですが、だからこそ部員皆の意見を取り入れ、それぞれのカラーが出せる雰囲気作りを目指しています。少人数なのでまとまりがあり、部のみんなで遊びに行くこともあります。また、OGとの繋がりも強く、一緒に演奏会の打ち上げに行くこともあります。

楽器は貸出用があり、経験がなくても気軽に始められます。伝統楽器を弾きこなすことだけでなく、多くの出会いと共に学ぶことがたくさんある部です。



ミリアムカレッジからの学生の歓迎会で

●ひとりではできないことも、仲間がいれば挑戦できる



創部58年の伝統があり、部員数は20人。週3回の練習のほか、月3回程度、ボイストレーナーや技術顧問の先生を迎えての練習も行っています。

大きなコンサートが年2回あり、その一つは、夏に開かれる他大学の合唱団とのジョイントコンサートです。昨年は大阪大学男声合唱団、神戸女子大学コーラス部、一般の合唱団と共に開催しました。もう一つは、冬の定期演奏会。コツコツと積み重ねてきた練習の成果が発揮される日であり、舞台構成は全て部員達で行います。歌う曲は、合唱曲をはじめ、美しいミサ曲、J-POP等、さまざま。初心者でも先輩に支えられることで合唱の楽しさに気付くことが出来ます。

今年のモットーは「一年を通してやってよかったと思える部活」。コンサートの後や卒業した後に、「いろいろあったけど、このメンバーと歌えてよかったな」と思えることが理想です。アットホームな雰囲気ですが、「やるときはやる、遊ぶときは遊ぶ」の精神で、オンオフの切り替えはしっかり。部員同士の仲もよく、昨年は部活旅行でディズニーランドへ行きました。

## コーラス部

# Join us!



1990年に創部し、部員はマネージャーとトレーナーを含めて30人。週5日、主に8～11月に開催される関西ラクロスリーグ戦に向けて練習しています。春には新入生歓迎会や授業登録説明会、夏には3泊4日の合宿やプレゼント交換会、バーベキュー大会、冬にはクリスマスプレゼント交換会や1泊2日の旅行等を企画。また、冬のオフ期間が終わるとKC CUPという部内の運動会も開催します。



2013年度の戦歴は、リーグ戦3部準優勝、2部昇格。今年の目標は、2部で3位に入賞し、1部との入れ替え戦まで進むことです。また、「全員で泣き、全員で笑い合える素敵なチーム」作りも目指しています。

部内は先輩後輩問わず仲がよく、いつも笑い声が絶えません。また、チューター制度を設けているので、入部してすぐに新入生一人ひとりに先輩がついて指導し、その関係は何年生になっても続きます。

ラクロスはほとんどの人が大学から始めるスポーツ。つまり、スタートラインは皆同じです。努力次第で、関西選抜選手や日本代表選手になることも夢ではありません。

## ラクロス部



2013年夏 石巻にて牡蠣の養殖ボランティア

YMCAはキリスト教を基盤とする、125の国と地域に広がる世界最大規模のNPO団体。神戸学院大学学生YMCA部では、「隣人愛」に基づく愛と奉仕の精神に重きを置いています。部員数は30人で、部会は週1回程度。ボランティア活動のほとんどは任意参加で、多様なプログラムやセミナーを通して、他大学の学生とも交流を深めることができます。

夏には、静岡県で開催される日本YMCA同盟主催の夏季ゼミナールや、世界のあらゆる問題について議論し考えをシェアする地球市民プロジェクト等があり、多様な社会問題への学びを深めることができます。また、部員が自ら立案・企画して始めた東日本大震災復興支援ボランティアでは、被災者の心のケアを中心に、被災地視察や仮設住宅での交流会、児童クラブの子ども達と遊ぶ等の活動を行っています。

さまざまな活動により、知らなかった新しい何か——感情、経験、事実、学び、友人等、何か一つでも得て、自己の成長に繋げることを目指しています。

## 学生YMCA部

## 地域社会に役立つ演奏活動をプロデュースする

●音楽によるアウトリーチ ～社会に開かれた学び～



国立病院機構刀根山病院

神戸女学院大学音楽学部では、2001年度から授業の一環として「音楽によるアウトリーチ」に取り組んでいる。アウトリーチ(Outreach)とは、「通常の活動範囲から踏み出すこと」の意で、音楽学部の教育を、学内やコンサートホールだけでなく社会の様々な分野に開くことで、学生の主体的な学びを促すもの。学生自らが幼稚園や小中学校、病院等に音楽プログラムを企画、提供しており、その活動は年々拡がりを見せている。

3月6日、国立病院機構刀根山病院(豊中市)において、履修生8人による「春のそよ風コンサート」が実施された。当日は集まった約80人の患者さんやスタッフの前で、ミュージカル曲『虹の彼方に』や往年の名曲『青い山脈』等、バラエティに富んだ12曲を演奏。最後に、学生からのサプライズで、患者さん達にとって身近なドラマ『あまちゃん』のオープニングテーマ曲を盛り込み、披露した。合間には皆で一緒に歌ったりからだを動かしたりする時間も設けられ、終始和やかな時間が流れた。今回の院内コンサートでフルートを演奏した山川さんに話を聞いた。



終演後、病院スタッフの方々と

## Outreach in Music



学生による手作りの楽器



音の振動を感じられる風船

山川さんはプログラム作成を担当されたとか。うまく出来ましたか？  
普段パソコンを使わないこともあって、とても時間がかかりました。どのように記せば解りやすいのか、どんな情報があると親切なのか、ほかの履修生や先生にも確認して貰って、よいプログラムが出来上がったと思います。  
——自分達で会場の飾り付けもしたのですが、ほかに工夫したところは？  
演奏を聴くだけでなく、音楽に参加して貰いたかったので、患者さんも一緒に演奏できるように、皆でマラカスを手作りしました。音の鳴りや大きさ等を考えて素材を選び、楽器を持つことが出来ない患者さんには、音の振動を肌で感じられるよう風船を用意しました。

「音楽によるアウトリーチ」履修生に聞く

●音楽学部音楽学科  
器楽(フルート)専攻4年生  
山川さん



履修生が制作したコンサートのプログラム

——コンサートで特に印象に残ったことを教えてください。  
私が演奏したフルート二重奏のヨハン・シュトラウス二世作曲「春の声」を、アンコールでリクエストして頂いたことです。クラシックにあまり馴染みのない患者さんが、この曲をもう一度聞きたいと思ってくださったとても嬉しかったです。あと、患者さんに「素敵な演奏をありがとう」と言ってもらえる人がいることが一番嬉しいです。  
——病院スタッフの方々の反響は？  
実習後の座談会で、「患者さんの表情がとても柔らかくてよかった」と言っていました。これからの励みになりました。  
——この経験から、何を学びましたか？  
今回は一月に事前研修をして頂き、そこで患者さん達の生活や病気について学びました。そのため、実習までの間に「自分達に出来ることは何か」を、常に考えることが出来ました。「自分のために演奏するのではなく、人に伝える演奏をしたい」と強く感じたことは、私の中の成長だと思っています。

## 記念賞を受賞して

●受賞者紹介

神戸女学院では、創立者や米国人宣教師、後援者、卒業生などを記念し、内外から寄せられる寄付金を基金として、様々な記念賞を設けている。対象は学業、人物ともに優れた学生で、推薦により各記念賞相当額が支給される。授賞式の前に、各受賞者にコメントを貰った。(学年は取材当時)

●鈴木豊子記念賞

本学音楽学部で学ばれた鈴木豊子氏を記念して、2010年、令嬢の太田津根子氏からの寄付により創設。音楽学部音楽学科4年生で、伴奏分野において優秀な学生に与えられる。

●音楽学部音楽学科4年生 古川さん

この度は栄誉ある鈴木豊子記念賞をいただき、大変嬉しく存じます。パートナーとよき信頼関係が築けたからこそ、一層互いの音楽が融け合うことができたのではないかと思います。これまで御指導いただきました先生方に、深く御礼申し上げます。今後も精進して参ります。

●大島初枝記念賞

本学第40回高等部・第43回大学部卒業生であり、戦後初の同窓会長を務めた大島初枝氏の志を、「国際ボランティア活動」の推進に活用した記念賞。国際ボランティア活動(国内での各種活動を含む)に参加した学生が対象で、募集要項により応募した中から2名の学生に与えられる。

●人間科学部環境・バイオサイエンス学科3年生 松川さん

名誉ある素晴らしい賞をいただき、大変光栄に思います。私は留学生バディ活動を通して神戸女学院の「愛神愛隣」の精神を学びました。今後もこの賞に恥じないよう活動し、精神を広く伝え、国際交流に貢献したいと思います。

●人間科学部環境・バイオサイエンス学科4年生 宇賀治さん

「今しかできないことを思いきりやる！」。大学生活で立てた目標が受賞により形になったことが嬉しいです。受賞のきっかけとなった私の海外ボランティア生活は、本当に多くの方の理解と協力あってのものでした。これからは受けた恵みを返しつつ、色々な壁にぶつかりながら自分を磨いていきたいと思っています。

## International Programs Center

### 認定留学先を70大学に拡大

●西日本初、JSAFとのフルパートナーシップ  
本学初、ニュージーランドの大学と協定締結



Australia

■ディキン大学  
英国のなごりと歴史が残る街、メルボルンの郊外に位置する。

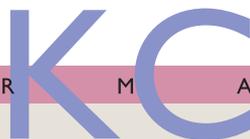


New Zealand

■ワイカト大学  
本学も加盟するHUMAP(兵庫・アジア太平洋大学間交流ネットワーク)の大学の1校で、オークランド近郊のハミルトンにある。

2014年度より、神戸女学院大学は西日本の大学として初となるJSAF(日本スタディ・アプロード・ファンデーション)と連携し、認定留学協定先をアメリカ、カナダ、ヨーロッパなど世界各国へと拡大した。JSAFとは、アメリカの非営利教育財団の学部留学部門で、日本人学生を対象に、海外の提携大学への学部留学プログラムを制度化した団体。個人出願の難しい大学を多く留学先にもち、きめ細かな留学サポートはもちろん、留学手続き支援

や奨学金制度等も充実している。ホームページから希望する学部・学科の情報や残席等まで確認できるのも特徴だ。さらに、本学は新規留学先として、本学初となるワイカト大学(ニュージーランド)、ディキン大学(オーストラリア)とも学部、大学間協定を締結。これらの協定により、認定留学先は、従来の英国協定7大学から70大学へと大幅に選択肢が広がり、派遣留学などの他の留学制度を含め今後の国際交流がますます盛んになることが期待される。



講演会・公開講座・コンサートなど

初夏の公開講座2014

- 情報化社会の光と影
    - 第1回 「インターネットの光と影」  
日 時：6月14日(土)10:00～11:30  
講 師：出口 弘(人間科学部環境・バイオサイエンス学科 教授)
    - 第2回 「情報発信と情報管理：古代ギリシアの視点から」  
日 時：6月21日(土)10:00～11:30  
講 師：高橋雅人(文学部総合文化学科 教授)
    - 第3回 「ネットいじめと子どもの心」  
日 時：6月28日(土)10:00～11:30  
講 師：小林哲郎(人間科学部心理・行動科学科 教授)
- 場 所：神戸女学院大学文学部1号館21号教室  
※小学生以下のご入場はご遠慮ください  
問い合わせ：広報室 TEL 0798-51-8585

音楽学部演奏会・公演

- ベガにオーケストラがやってきた！ Vol.5(サマーコンサート)  
日 時：6月24日(火)18:30開演  
場 所：宝塚ベガ・ホール  
参加費用：前売り500円 当日600円
- オータムコンサート  
日 時：10月2日(木)18:30開演予定  
場 所：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
- 音の響宴  
日 時：11月12日(水)19:00開演  
場 所：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール  
参加費用：1,000円  
問い合わせ：音楽学部事務局 TEL 0798-51-8550

アウトリーチ・センターイベント

- 子どものための七夕コンサート～音楽で恋の魔法をかけよう～  
日 時：7月5日(土)  
第1部 11:00開演(10:30開場)年齢制限なし  
第2部 15:00開演(14:30開場)小学生以上対象  
場 所：神戸女学院講堂  
出 演：「音楽によるアウトリーチ」履修生  
参加費用：大人500円、子ども(19歳以下)300円 申し込み要
- 子どものためのスペシャル・コンサート～トロンボーンの魅力～  
日 時：10月11日(土)  
第1部 11:00開演(10:30開場)年齢制限なし  
第2部 15:00開演(14:30開場)小学生以上対象  
場 所：神戸女学院講堂  
出 演：ベル・カント・トロンボーン Bell Canto Trombone  
鶴房采花・藤井美波・吉田梨絵・小南友里加・田村佳子(トロンボーン)、松尾璃奈(ピアノ)、祐成麻奈未(司会)  
参加費用：大人500円、子ども(19歳以下)300円 申し込み要  
問い合わせ：音楽学部アウトリーチ・センター  
TEL 0798-51-8584 E-mail concertfch@mail.kobe-c.ac.jp

心理相談室ウィーク

- 期間中、下記の通り無料相談と講演会を実施します。(いずれも無料)
- 無料相談(要予約)  
日 時：7月30日(水)～8月5日(火)10:00～17:00(土日除く)  
場 所：神戸女学院大学心理相談室  
申込期間：7月7日(月)～7月18日(金)10:00～18:00(土日除く)  
※在学中の方及びその保護者の方のお申し込みは受け付けることができませんのでご了承ください。
  - 講演会(予約不要)  
「子どものネガティブ行動に対処する」  
日 時：7月30日(水)13:00～15:00  
場 所：神戸女学院大学エミリー・ブラウン記念館2階201室  
講 師：國吉 知子(神戸女学院大学大学院 教授・臨床心理士)  
問い合わせ：神戸女学院大学大学院心理相談室 TEL 0798-51-8554

金曜日公開プログラム

- オルガンコンサート  
日 時：6月27日(金)10:35～11:25  
出 演：前田直子、片桐聖子
- 大学院生による演奏会  
日 時：7月11日(金)10:35～11:25  
出 演：神戸女学院大学大学院 音楽研究科1年
- 創立記念講演会  
日 時：10月3日(金)10:35～11:25  
講 師：未定
- 宗教音楽の会～モーツァルト音楽大学からRoczek教授と学生達をお招きして～  
日 時：11月14日(金)10:35～11:25

- 出 演：Paul Roczek教授(ヴァイオリン)、モーツァルト学生2名(ヴァイオリン、ヴィオラ)、辻井淳(ヴァイオリン)、林裕(チェロ)、Luck Xavier(フルート)、佐々由佳里(ピアノ)
- プログラム(演奏順未定)：  
Mozart 弦楽四重奏曲 ト長調 K.387 第1、第3楽章(2Vn, Vla, Vc)  
Beethoven セレナーデ 二長調 Op.25より 2つの楽章(Vn, Vla, Fl) 他
- 場 所：神戸女学院 講堂  
問い合わせ：チャプレン室 TEL 0798-51-8502

高校生等参加イベント

- オープンキャンパス  
日 時：6月22日(日)、8月2日(土)、3日(日)10:00～15:00  
9月15日(月・祝)10:30～15:00  
内 容：模擬講義、キャンパスツアー、各種相談コーナー 他  
問い合わせ：入学センター TEL 0798-51-8543
- 第5回絵本翻訳コンクール  
参加申込締切：8月6日(水)  
※申込後、課題図書をお送りします。詳しくは本学ホームページをご覧ください。  
問い合わせ：広報室 TEL 0798-51-8585
- 音楽学部夏期講習会(要申込み、詳細は音楽学部ホームページをご覧ください)  
日 時：器楽、声楽、ミュージック・クリエイション専攻 7月30日(水)～8月2日(土)  
(※受講資格：中学生・高校生)  
舞踊専攻 7月30日(水)、31日(木)  
(※受講資格：中学3年生以上、高校3年生優先30名まで)  
場 所：神戸女学院大学音楽学部  
問い合わせ・申込み：音楽学部事務局 TEL 0798-51-8550

めぐみ会主催行事

めぐみ公開講座

- 2014めぐみ講演会  
「アフリカできつき、日本できずく」  
日 時：6月25日(水)13:20～14:50  
講 師：神戸女学院大学文学部総合文化学科 教授 金田 知子 氏  
会 場：神戸女学院めぐみ会館  
受講料：1,000円(学生は無料) ※要予約 (HPも可)  
「残したい日本の歌」  
日 時：10月18日(土)13:30～15:00  
講 師：東京藝術大学・都留文科大学 講師 青島 広志 氏  
会 場：神戸女学院講堂  
受講料：一般1,500円 学生1,000円 ※要予約 (HPも可)
- 2014アートセミナー  
「老いと成熟と一映画人C.イーストウッドと作品の世界を軸にして―(全2回)」  
第1回：9月3日(水)11:00～12:30  
人生、あなたはどちらの歩き方?：二つの映画「マネーボール」と「人生の特等席」を参考に  
第2回：9月10日(水)11:00～12:30  
重ねた年齢と経験の質を問う映画人C.イーストウッドの歩んだ道と「インベクタス/負けざる者」を参考に  
講 師：園田学園女子大学 名誉教授 吉村 禰 氏  
会 場：神戸女学院めぐみ会館  
受講料：各回1,000円(学生は無料) ※要予約 (HPも可)  
「ジャポニスムの光彩―印象派、アール・ヌーヴォーと日本の美―」  
日 時：10月3日(金)11:00～12:30  
講 師：大阪新美術館建設準備室主任学芸員 植木 啓子 氏  
会 場：神戸女学院めぐみ会館  
受講料：1,000円(学生は無料) ※要予約 (HPも可)  
「スペインの世界文化遺産を歩く(全2回)」  
第1回：11月10日(月)13:00～14:30  
サンティアゴ巡礼の道：世界文化遺産に登録された巡礼路のロマネスク聖堂  
第2回：12月1日(月)13:00～14:30  
バルセロナ散策：アントニ・ガウディの建築を歩く  
講 師：大阪大学文学研究科 准教授・神戸女学院大学文学部 非常勤講師 岡田 裕成 氏  
会 場：神戸女学院めぐみ会館  
受講料：各回1,000円(学生は無料) ※要予約 (HPも可)
- 2014キリスト教セミナー  
「キリスト教の視点から『終活』を問う」  
日 時：7月2日(水)11:00～12:30  
講 師：神戸女学院大学チャプレン・文学部総合文化学科 准教授 中野 敬一 氏  
会 場：神戸女学院めぐみ会館  
受講料：1,000円(学生は無料) ※要予約 (HPも可)  
問い合わせ・申し込み：公益社団法人神戸女学院めぐみ会  
TEL 0798-51-3545 URL: http://www.megumikai.or.jp/

※行事について特に記述のないものは、基本的に申し込み不要・無料です。